

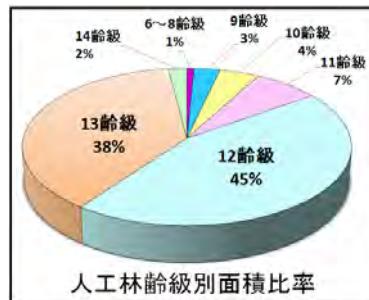
パイロットフォレストにおける齢級構成の平準化と超長伐期施業の検討について

根釧西部森林管理署

繁田 直樹、林田 昌己

取り組みの背景と目的

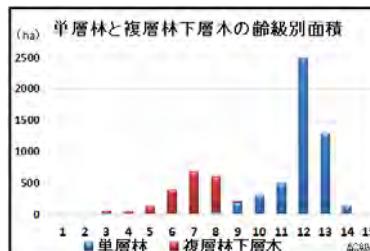
パイロットフォレストとは、厚岸町と標茶町にまたがる国有林のうち、長年に渡り荒廃した原野として放置されていましたが、森林の復活、木材生産力の増大、民有林の造林意欲の高揚などを目的に策定された造成計画により大規模な植林がされた区域であり、計画対象の約10,800haの区域において昭和32年以降の10年間で湿地などを除いた約6,800haにカラマツを主とした人工林が造成されています。



現在、パイロットフォレストでは、12歳級と13歳級の人工林が8割以上を占めており一斉に主伐期を向かえている状況です。しかし公益的機能維持の観点からも大面積な皆伐を避け、伐採の時期を分散させて一部を長伐期化するとともに、天然力の活用による施業や超長伐期化も図りながら、長期的な計画での再造林が求められています。そのため現況の林分データと現地調査を実施して今後の施業方法の検討について取り組みました。

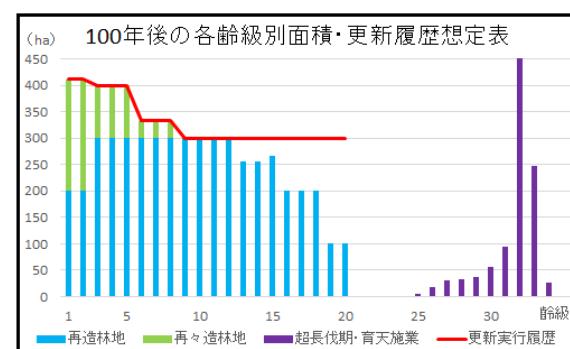
齢級構成平準化と超長伐期化への考察

齢級構成の平準化について、再造林対象箇所は育成天然林への移行候補地を除いた約5,800haを最大量と仮定し、伐採方法を帯状で25%~50%の複層伐、当署管内における現状の造林事業量と今後の安定した事業発注の観点から年平均60ha・5力年で300haを更新計画面積として考察します。



まず、単層林は次期計画から順次開始しますが、すでに複層林として造成されている箇所が28%あり、樹下植栽されているトドマツ・エゾマツは6~8歳級であるため、複層林では下層木を対象として更新開始は30年後からとなります。また、全体の更新が完了するまでには100年程かかり、その間に初期に再造林した箇所が13歳級を超えて更新対象となるため、前期～中期は単層林主体、中期～後期は複層林主体及び再々造林を対象に更新を計画します。なお、想定では再々造林の開始により75年後の更新面積は5力年で400haの計画になりますが、この頃には天然更新などによる計画の見直し箇所が増えており、実際の対象面積は減少していると思われます。

超長伐期・育成天然林施業については、数カ所において地林況や野鼠被害など現地調査をした結果、区域内でも成育状況に差異があり、植栽時期や地形などから候補地の条件を決めて対象地を設定していきます。



今後の取り組み

今後の施業については、これまで北海道では100年生を超えるカラマツ林はありますが、施業としての実績はほとんどないため、超長伐期化に伴って大径材の利用推進を実施するにあたり、観察や調査等による成果はもちろんのこと、多様な樹種や大きさの樹木を育む森林を整備し、そこから様々な木材を安定的に一定量の供給ができるよう取り組んでいきます。

